

# 来週の「売り物記事」はこれ



2019年4月12日号

毎日新聞東京本社 編集編成局・販促宣伝部

## 日本代表監督・森保一の生きざま

「ドーハの悲劇」くぐり抜け、選手を信じる―

14日（日）



サッカー日本代表、2020年東京五輪男子監督の兼任という重責を担う森保一監督（50）。ワールドカップ（W杯）後の新たな4年間を日本人指導者に託すのは初で、W杯8強入り、東京五輪金メダルという未到の目標に挑みます。無名のサッカー人生から抜てきされ、W杯初出場を目前で逃す「ドーハの悲劇」も経験。はい上がってきた男の生き様とは。

## 中学入試問題に「貧困」「格差」

偏見のない広い視野求めて 夕刊特集ワイド 15日（月）

少子化が進み大学受験者が減る中、私立や国立中学の受験者数は増加しています。塾や家庭教師の費用がかさむため、受験生は経済的な余裕のある家庭の子どもに偏りがちと言われています。ただ、今年の入試では「裕福さ」とは正反対の「貧困」や「格差」を問う出題が目立ちました。学校側は子どもたちに何を問おうとしたのでしょうか。

## 革靴 お手入れのコツ

くらしナビ面 16日（火）

4月から新生活を始めた方も多いことでしょう。特に社会人なら、「足元」の身だしなみには気を配りたいものです。革靴は、手入れをしないと水分や油分が抜けて劣化しますが、補給すれば柔軟性や光沢度が出て、革が丈夫になるそうです。自分でできる革靴の手入れのコツを、革のケアを扱う「R&D」（東京都台東区）の静（しずか）孝一郎社長（53）に聞きました。



## 親と暮らせない子のケア 「本人の意見反映を」

社会保障面 17日（水）

虐待や家族の病気など、さまざまな理由で親と暮らせない子どもを里親家庭や児童養護施設で育てる「社会的養護」。ケアを受けた子どもや若者ら当事者の声を制度の改善に反映させる取り組みが、具体化し始めています。ただ、つらい経験を子どもや若者に語ってもらう際には、十分な準備期間を取るなど注意も必要です。先行する米国の例を含めて紹介します。

## 児童虐待を止めるには

オピニオン面「論点」 17日（水）

今年1月に千葉県野田市の小学4年、栗原心愛（みあ）さん（10）が父親から虐待されて死亡した事件を受け、児童虐待防止法などの改正案が5月に国会で審議入りする見通しです。事件では、児童相談所と市教育委員会の不適切な対応や、父親による妻へのドメスティックバイオレンス（DV）の疑いも明るみに出ました。どうすれば児童虐待を止めることができるのでしょうか。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

## 「アニマルクライシス」

環境面 17日（水）

動物たちに忍び寄る危機を現場から報告する新連載「アニマルクライシス」。1回目は、象牙を得るための密猟による生息数の減少が国際問題になっているゾウ。象牙の流通が認められている数少ない国・日本では、その市場は大幅に縮小している一方、違法となる輸出を助長するような販売も続いていました。

## 食 フード 中華とイタリアン、絶妙な融合

くらしナビ面 20日（土）

中華とイタリアンを融合させた料理を提供する飲食店が最近増えてきて、注目を集めています。東京・築地に今年1月オープンした「LOTO BLU（ロト ブル）」は、本格イタリアンに黒酢や刺激的なスパイスなど、中華のエッセンスを加えた新感覚のメニューが人気です。料理長の濱田豊さんに、家庭にある材料で手軽に作れるレシピを教えてくださいました。

## 「代替わりへ～私が見た両陛下」

社会面 20日（土）から

天皇陛下が30日、退位されます。陛下と皇后さまは国民の考えを知ろうと、全国の訪問先などでの人々との出会いを大切にしてきました。住まいの皇居・御所に人を招くこともありました。直接ふれあってきた人たちにお二人の姿はどのように映ったのでしょうか。交流を続けてきた著名人らに両陛下とのエピソードや印象に残っている言葉を振り返ってもらいます。